

おおやまと

大倭出版局・大倭紫陽花邑

令和元(2019)年
12月号
通巻592号
毎月23日発行
(題字 矢追日聖)

★発行日 令和元年12月23日
★発行所 大倭出版局
〒631-0042 奈良市大倭町1の12
☎(0742)45-1192
★印刷 大倭印刷 監修
★定価 1部 250円
年間購読料3,000円(送料共)
★郵便振替 01050-6-67002
大倭出版局
URL <http://www.ohyamato.jp>



おな神の森 (和歌山県新宮市/熊野古道、高野坂)

林修三さん撮影 (秋の一泊文化行事報告・4頁)

昭和39(1964)年4月5日 学生達への話から

大倭とF I W Cの出会い — ^{むすび}交流の家建設始まる(下)

於：旧拝殿

法主 矢追日聖 (満52歳)

善意の
独裁

ここには、私という人間個人を絶対的に信頼した人ばかりが寄って来ているんです。私のことが気に入る人は、よその宗教に行ってもすまんね。

人間根性を出して、例えば世間の人がびつくりするような大きなお堂を建てたら信者が増えるかしれんとか、寄付でも集めようとかね。そんな世間並みのことを信者の幹部が協議して、最後に私のところに持って来たとしても、「やめとけ」と言うたらしさいです。何日かかって協議したって何にもならへん。ここはもう私の独裁ですよ。(笑)

けれども、この独裁は良い意味の独裁なんです。独裁だつて悪い独裁だつて、良い独裁だつてあるんですよ。(大爆笑)

ハンセン病回復者の宿泊施設でも、宗教法人の物だから、法律では幹部が協議会を開いて三分の二の多数決をとらなければ出来ない。ところが私の場合、ここに建ててもらおうかと決める。そしたら信者が出て来て「こら何ですか」と。私が「ハンセン病回復者の宿泊施設という



1964年春ロングキャンプ 建設予定地整地

もんや」。「あー、えらいもん出来るんやなあ」。それで誰か一人が「法主さんがせえって言わはってん」と言えば、なんぼ信者がおったって誰一人くすつとも言わん(笑)。それでしまいですねん。そらもう昔の天皇より偉いんや。独裁っていうのは非常に話も早いしね、簡単ですよ、これ。(笑) まあ大倭はそんなところですよ。

その代わり、それだけ責任ある立場ですから、私自身は神さんと差し向かいのような気持ちです。社会の皆に対して良いことか悪いことかどうか、本当に自己反省します。社会一般の人が幸せになる、喜んでいただけるとのことなら、私が一言やれつと決定すれば、うちの幹部でも首判押しますねん。そういうふうに私のところでは出来る。いちいち役員と相談しますとかいいうのはないんです。私の結論に対して、誰も不平不満はない。私がやると言ったらもう出来るんで、それくらいこの宗教は簡単です。

そういう意味から言うと、教祖さんになるんですがね。けれども世間に沢山おる教祖さんと一緒に思われると片腹痛いんです、ちよつと違うと。

絶対にうしろない

私らの子供時代に、例えば四天王寺のお彼岸さんの時なんかには、道の端へ手の指がないような人達がずらーつと並んでいた。乞食というかね。けれども私はその時分から、なぜその人達がこういうような病気になるのかと盛んに考えた。病気の人は、一村に一人とか、三年か五年にどこか違うところまで一人とか、全国でも少ないんです。こういうような病気になる人はどういう宿命か運命か、何としかし世にもまれな気の毒な人やと、いつも私はそういう気持ちで素通り出来なかつた。

現在はそういう人達の療養所も出来ておりますし、あなた達はそんなの知りませんわね。道にずらーつと並んだ姿を見て喜ぶ人は滅多におりません。けれども同じ人間同士でありながら、そんな病気になるっておる人が事実、社会におるんや。自分がならなくて結構であるという反面、何と気の毒だという同情も出て来る。だから私は敬遠するとか汚いとか、その頃でもそんな気持ちはなかった。ハンセン病の人の横に自分が座って、ちよいちよいと話しかけて、叱られましたけどもね。

皆、自分の出里とか身元も名前も言いませんでしたが、きつと遠く離れた村から来ている人やつたと思うんです。そういう人達を救済するような社会運動は今日まで一遍もやっておりませんが、気持ちの上では気にかかっておりました。

私はハンセン病という病気が絶対にうつるものではないという自覚はしているんです。こんなことを言ううちよつと宗教の臭いがしてくるんですが、私が言うこととして言わしてください。

靈魂とは、分かりやすく言えば、人間を生かしている宇宙の力です。一年一年身体が発育していく力、心臓を動かしておる力、血液をトクトコ廻している力、これは自律神経が動かしているわけです。私達は意識せずとも、寝ている時も息を吐いたり吸ったりしている。この自律神経を何が動かしているかと言えは、やはりそれは宇宙の生命力と言わなければならぬ。我々生物や動物を生かす宇宙の生命力を、靈魂と私は言うんです。

人間が受胎した時に、一つの靈魂が小さい種にピュッとくつつきよるわけや。その働きかけてくる靈魂に何か焼印のようなものがある。肉体の問題ではなくてね。これは人間の再生論になりますけどもね。昔生きていた人が死んで、その人がまた後に生まれ変わってきて、またそれが死んで次に

生まれていくという再生論です。私は靈界を見て、そんなこと分かるんですよ。

だから千年前の人が昭和に生まれてきたり、クルクル廻ってきた時、ハンセン病になる人の靈魂は分かる。その靈魂が受胎すると、ある一定の歳になるとハンセン病になる。仏教では悪因縁と言いますかね。生長の家でも肉体は心の影と言います。心の影が肉体の病気になるってると、「甘露の法雨」「生命の真相」とかで説明しています。あちらでは神想観をやれと言うようですが、そこにも真理はあるんです。

これは先天的な問題だから、現在生まれてきた人は非常に可哀想なんだけれども、肉体に入ってきた靈魂が前の世の時に何かがあつて、不幸にして生まれ変わってそうなる。私の思惑ですから、あなた達は分からんでもいいですよ。

だからこちらに素質がなければ、仮にハンセン病で崩れた手を私につけても絶対にうつりません。仏教臭くなりますが、因縁を持っている人なら、側にハンセン病の人がいなくなつたってハンセン病になつていくんです。これは因縁論ですから、あなた達は信じなくたっていい。

治る力

ハンセン病の人達を、うつるからと言って差別する必要なんて絶対ないと私個人は確信を持っています。愛生園でもお医者さんやお世話をする人が沢山おられるはずですが、おそろくうつらないと思います。結核になる素質の人は、電車の中でも映画館でもうつります。結核の人と夫婦になつて何年たとうと、体力があればうつりません。

うちでも病人を診てほしいと相談に来ますが、病気の直接原因の大体八割は冷え込みですわ。今

時の女の子なら冬でもパーツと裾開けて足を出して歩いているけれど、足冷やして三十前後になってきたらポチポチ神経痛とか出て来るに決まっているんです(笑)。お産の時に重くなるというようなご利益が出ます。(笑)

その次に過労とか、ない頭を絞りすぎてノイローゼ気味になったり、精神的な重荷で肉体を患うんです。いわゆる精神苦とか、くだらんことに心配ばかりするとか、人間の心の状態からくる病気が、放っておくと色んな病気に変化していく。結局、我々の病気の原因は、自分の不養生とか心の持ち方からくるのであって、結核であろうがハンセン病であろうが、そんなにやたらうつるものじゃない。

医者から死ぬと言われた人のところに私が行くところ「ああ教祖さんが来てくれた」と、それだけで精神的に大分救われるしね。結核で吐いて死にかけてるような病人の側でも、「ほんまの肺病やったらわしにうつるかな」とか冗談を言うて、喜んでお茶飲んだり物食べたりしたら、相手が精神的な安心感と喜びを持つ。医者に見放された人が相当治ってます。私は本を読んで勉強して宗教家になっただんじやない、自分の持っているもので今日まで来ているのでそんなことも平気で出来るんです。

しかし神さんがありがたいとか、あなたがこの信仰に入ったから病気が治ったなんて絶対に言ったことありません。かえって、神さんは病気を治しませんよと私は教えてあげる。お百度踏んで、どれだけお賽銭上げてても神さんは絶対聞いてくれないと、正直に教えてあげる。

その代わり養生法を教えるんです。そうすると精神的に非常に信頼して、その精神的な力で病気に打ち克って治っていく。

その人が「神さんのお蔭で治りました」と言う

たら、「神さんは治さへんで、自分の肉体にまだ生きていくだけの力があつたから治ったんだ」と私は言うんです。よその多くの宗教と私の行き方は、その点が逆なんです。大倭の宗教の場合は神さんではなく、人間の私が絶対に信頼されているんです。だから私の独裁なんです。私が右向けと言ったらもう無条件に右向く。(笑)

大倭はそんな意味で独裁のところで、それだけに物事の良いことは簡単にはかどるんですよ。ところが良い悪いの判断をする私の頭がぼんくらやったら、これは社会にえらい迷惑をかける。けどまあ今日までまだ間違いはありませんから、大丈夫だと思っっているんですけどね。

差別と平等

今言うように私は宗教的な感覚でものを見ています。差別とかハンセン病の問題に対して、私自身の宗教的な一つの悟りなんです……。

人間は皆が平等だけれども、生まれつきの相違があるわけです。例えば、あなた達はうまいこと試験をパスしてここまで来ているから優秀なんです。けれど反面、何十倍の人間が浪人したり社会でウロウロしてんねん。頭の知能一つとってもそのくらい差別で出来ている。

しかし、これは人間価値の問題ではないんですよ。人間価値はルンペンにいたるまで皆平等です。仏教では仏性があると言って、我々人間一人一人は仏になる素質を持っているという。キリスト教のイエスも父なる神の子で人間としての価値では平等と私は見ている。皆が仏さん神さんです。

しかし能力の面においては、実にこれ差別に出来ている。顔一つ見たってみんな違うんやからね。背の高い低いもあれば、もう全部が差別に出来て

いる。だから学問的能力のずば抜けている人もあれば、そうでない人もいる。学問は全然出来なくても、手先の仕事は実に器用にやり遂げる人もおるしね。一つ一つの特徴があつて、それぞれ長所を持っているんや。これが大自然が作った神秘的な世界です。

ところが世の中は、金を上手に作る人間は財産を持って、金の作る能力の足らん人は隅っこで縮こまっている。昔は権力者とか特権階級が上におつたけども、今は何しろ金を持っている者が、人間性が悪くてもいばつている。そういう社会です。

お互いに能力のある者も少ない者もいて不平等に出来てるんやから、金をこしえらえるのが上手な人はうんと作つたらいいんです。反面、金のよう作らん人がいるんやから、儲けた金を社会に有効に流して使つたらいい。学問の世界でも、能力のある人はそれを伸ばしたらいいねん。勉強嫌いな人もおるんやから、そこへ知識を生かしてくれば相通じて世の中うまいこといく。女と男が一緒になるようなもんですね。

人間価値は全部平等に出来ているけれども、色んな面でお互いの相違がある。それを生かして、お互いに自分の能のあるところを、足らん人に流して、どんな人でも幸せに暮らせるような社会にしていくと、そういう気持ちになつていくのが宗教の心だと、私は考えてます。

そうなる日本人が考えているような排他主義が一番慎まなきゃならん根本問題です。能力の平等というのは絶対ないんです。同じ仕事を十人にさせても一人一人全部違うんだから、そんな面において平等感を持つとかえって不平等なんです。荷物を背負うのでも、五貫目しか無理な人がいるし、十貫目でもいいける人がいる。それを皆平等と言つたら、片方の人は苦痛やし片方の人は楽に仕

事をする。こんなものはかえって差別することが平等なんです。

生活や社会の問題も全部そうだと思うんです。各々持ち場が違うし、その人はどうだ、この人はこうだと皆差別があります。魚一つでも陸においたら死んでしまいますから、水の中に入れてやるとか、鳥だったら上へ飛ばしてやるとか、それぞれにに応じて仕向けていけないといけない。それが平等なんです。

だから平等、平等と言いますが、人間は皆差別に出来ていて、自分の能力を足らるところへ流してやるという気持ちに持っていけないと本当の平等にならないと思います。方法においては一見、不平等な方法をとるかも知れませんが、こうすることが皆の幸せになるということだったらそれもいいと。それが宗教の心なんです。

自分の人生の光明にしてほしい

中には、あなた方の割り切れんような話があったかもしれませんが、大倭教の味とか匂いだけは語ったと思うんです。

大倭教というものは、今日まで私の心の動くとおりに歩んできています。だから他の宗派・教派と同じという感覚で見えてほしくないんです。宗教法人法があって、仕方がないから大倭教というような名称をつけているだけで、大倭教だからこうだというのは何にもないんですよ。

ここに二、三回お見えになつてる方は少し匂いぐらいは分かっていただけだと思っただけです。皆さん方がこうしておいでになつても、大倭の信者であらうがなからうが、私は同じ気持ちで接しておるんです。

文部省管轄の宗教法人ですけども、信者名簿は

ないんです。法では必ず作らなきゃいけないんですが、特定の信者なしと書いてあるから、よく文句を言われるんですがね(笑)。文部省から言われれば、例えば大倭教の信者であるという申し込みをして、その裏づけとして会費を納めるとか、あるいは志納金を持つてくるというような関係を作るのが信者らしいんですね。私はそれは嫌なんです、文部省の言う信者は出来ないんです。

名簿がなくても、大倭に対して喜んで来てくれる人、帰依する人が全部うちの信者だと言ったり、それが世界中のどこから来た人であっても同じ信者やと、えらい法螺吹いてね。

ですから皆さんも大倭教だからとか宗教団体だとか、そういうような気持ちを持つてもらったら困る。あなた達がここでこうしておられたら、ここはあなた達の世界なんです。だから大倭教なんか全然問題にする必要はない。そういう大倭の匂いや味だけでも感じてもらえたら、キャンプに来てもらった意味があると思うんです。それがあなた達一人一人の心の中にあるだけでいいんです。

駄弁を弄しましたけれども、大倭というところはこういうような行き方の宗教であるということこそさえ理解してもらったら、私はそれで十分です。

大倭を信仰してくれとも手を合わせる信者になってくれとも言わないし、教祖さんだと尊敬してくれなくても、そんなこと何とも思わへん。

こうして皆一堂に若い方々が集まって、お互いに言いたいことを言って、そしてまた心の中に自分の人生の光明になるような、力強い何か一つさえ挿んでもらったら十分だと思うんです。それで、あなた達がここへ出て来てもらった意味も相当深いものがあると思います。一応これくらいで切り上げて、あとはまた個人的に色々お話を伺うことにします。では失礼します。

文責・編集部



④ 世界遺産 The World Heritage 高野坂 Koyazaka

高野坂(こうやざか)

新宮から那智山に巡拝する時、新宮の南に位置する高野坂を越えました。御手洗海岸の山沿いの参詣道で、標高が50mほどの高台の野地を越えるため、高野坂と呼ばれています。距離は約1.5kmと手頃ですが、海の眺望が美しい古道です。途中には石仏や石畳が残り、往時の景観を偲ぶことができます。



③ 神武東征上陸地

② 花の窟神社

⑩ 鬼ヶ城

一日目

第344回大倭会文化行事報告

ぐるっと紀伊半島一周

令和元年10月27〜28日

幽界の丹敷戸畔 その闇を照らす

あじさい色 杉本 順

令和元年10月27・28日両日大倭会一泊文化行事に参加した。前日まで雨で台風21号の余波を心配していたが、お蔭でいい旅行日和にしまった。両日とも和歌山の海は白波が見えない、素晴らしい二日間だった。明けて29日も雨でした。

旅行の案内書には「紀伊半島ぐるっと一周バス旅行」く神武軍と戦った丹敷戸畔の慰霊を中心としてとあった。「丹敷戸畔」と初めて見られた方は、想像しかねる字であったでしょう。

私が「戸畔」という字を見たのは、野草社発行の雑誌『自然生活』にあった(日本「国つ神」情念史への道)(津名道代著)の中である。その時はあまり関心がなく、ただ「トベ」という音だけが心に残っていた。

それから4〜5年たった頃だろうか、倭商の事務所です務仕事をしながら、昼間近畿にやってくる台風をテレビで見ているところ、和歌山の南端に上陸する様子がニュースであった。画面を見たら突然「ナグサトベ」という想念(声?)が飛んできた。

「トベのところに来てほしい」と言ってきた。これが戸畔さんとかかわり始めてあった。

「ナグサトベ」?何だ、何者だ?早速、『自然生活』の津名さんの頁を覗いた。「名草戸畔」と書いてあった。神武軍に敗れた大倭長曾根日子側だった人たちの女性首長であった。

程なく岸田哲さんに運転をお願いして紀北・紀ノ川下流域にある、名草戸畔の頭を葬った所と伝承のある「宇賀部神社」(通称「おこへさん」)をはじめ足や腕、胴などを葬ったと言われる神社

をお訪ねした。(※平成13年6月号『おおやまと』の「五里霧中頭幽記 その②」参照)

今回の旅行に戻ろう。

戸畔について、津名さんの文理閣刊『トベ達の悲歌』の本をたよりに「丹敷戸畔」のところを読んだ。先の「名草戸畔」と同じように神武勢と戦い破れた。『日本書紀』には七文字「因誅丹敷戸畔者」と書かれてあるだけだ。

なお丹敷戸畔が討たれた時には、未だ神武天皇は存在していない。狭野命と言った。西(九州)の王族四人兄弟の末っ子だったが、一人生き残り紀伊半島の熊野に上陸した時のことであった。この後もいく度かの戦があつて、後に狭野命は神武天皇として即位した。

しかし丹敷戸畔の暮らしていた地元には、今も四ヶ所も墓がある。歴史は常に勝者が前に出る、敗者は常に影の存在となっている。

「丹敷戸畔」の慰霊は当然、文化行事のお役目でもある。私はこの度の旅行目的が決まったことで、念のため「丹敷戸畔」さんに今のお気持ちをとお聞きました。

8月8日のこと――

「トベノミニナツテミナサレ イトイタキモノ
ニテ ワレミヲモチテ コレホドノ イタキヲ
シラズ ココロウシナウナリ タマシイニ モド
リテ ソノクノミ ノコシシモノナリ
ワレヲイタワリタマウナレバ ミノクルシミヲ
トクココロモチテ コラレヨ」

まさかこんな長いお言葉があるとは思わず、あわててメモをした。皆さんならこの電報(?)をどのように理解されるでしょうか。

私には「戸畔の身になってみてくださる 大変な痛みで 生きてる時にこれほどの痛さは 経



⑤



⑥

二日目
(上)本州最南端「潮岬」南紀熊野ジオパーク
(下)南方熊楠ミュージアムの昭和天皇御製歌碑
「雨にけふる神島を見て
紀伊の国の生みし南方熊楠を思ふ」



験したことがない 気絶してしまった そのまま死んでしまっても その激痛の苦しみだけが残ってしまった 私を労わってくださいるのなら 身の苦しみ(痛み)を取り除く心で 来て下さい」と思えました。

二千年もの間この苦痛だけの世界(幽界)にあられたことを想像して下さい。法主さんが教えてくださった、「人間死ぬ時の気持ちが大事やゾ」を思い出す。

丹敷戸畔を慰霊するために、「形をもって慰霊の心を表す」と教えられたことを思い出しつつ、

是非、昼食前に車中の皆さんに丹敷戸畔の悲痛な苦界のことを分かって貰おうと、このことをお話しした。

昼食の時には、各自が心から丹敷戸畔さんに思いをこめて先ずお供えしていただいた。

昼食会場である世界遺産、鬼ヶ城(写真①)から花の窟神社(写真②)を訪ね、次に四ヶ所あると言われる丹敷戸畔の墓の一つ「おな神の森」(表紙写真)を目指した。

ところが地元の人にもよく分からないらしく、幹事さんやガイドさんが苦勞された。バスを降りて徒歩で向かう。(写真③④は、その付近)

広い道から一段さがる畑の畔道を歩き、水害で流されたままの沢山の流木・ごみ芥を横目に進む。突然、自然石を並べた2m幅の古道が見えた。小高い山を登る坂道だ。

天気よく暑い、皆疲れ気味だ。山頂までは無理とみて、丹敷戸畔さんに聞くと、少し木陰になるところで、「コノアタリデケツコウ」とのこと(写真⑤⑥)。古道の坂道に夫々が持参したお菓子やお水をお供えして私は靈動するままにして、皆さんは「くにのものと」を歌われた。何か心温まるものを感じつつバスに戻った。

おな神の森での慰霊祭事が終われば、後は太地温泉のホテル「花遊」に着くまでバスでこつくりスースーだった。

私は何年前かに新城戸畔がある女性に憑依した時、慰霊のため大和郡山市の新城神社をお訪ねしたことがあった。文字通り金魚池がずらりと並んでいる細道を歩いていった。

その新城戸畔と、紀伊半島では名草戸畔・丹敷戸畔、ほかに桜井市の女寄峠で女坂に置かれた女

軍の人達を慰霊したことがある。神武軍と戦った女性がいかに沢山いたことか。

新城神社から帰る時に、神武天皇に「貴方がやってきた事は、どんなものでしたか」と聞くと、神武さんは「シカバネノミチ」と答えられた。ずしんと重いものを感じた。

丹敷戸畔さんとの約束を果たしてほつとした時、法主さんが「ハツクニノシメイノヒトツガオワツタ」と言ってこられた。神武天皇さんの靈界での使命が終わったと私は理解しました。

いづれにしても戦が起これば敵味方関係なく靈界にもどる者が出る、その御霊たちみんなが「日聖の和の光」の中に在って欲しいと願う。

古層熊野に続く足あと

神奈川県大和市 永仮 まゆり

二日目も大倭一行を乗せたバスは、紀伊半島の複雑な海岸線をくねくねと進んでいった。立ち寄った南紀熊野ジオパークの解説によると、紀伊半島は「三つの地質体からなる大地が、プレート沈み込みの影響を受け黒潮に突き出す形で隆起した地域」であるらしい。数千万年かけた地球生命体の痕跡は、複雑で多様な海岸景観としてあらわれ、気候は暖かい。一日目に訪れた花の窟も、熊野の地が生み出した巨大な岩石がご神体となり、イザナミの墓とされていた。地球のダイナミズムから生まれた岩に神をみるような信仰のあり方は、南の島の風景と重なり、以前行った沖縄の伊良部島と近いものを感じた。

夜の宴会で、福島から参加された高橋良美さんのお姉さんが、白虎隊の歌を熱唱され皆の感動を呼んでいたのだが、二日目のバスの中、白虎隊の志士達が靈界で寂しい思いをしていることが杉本

さんから伝えられた。ほんとうはお母さんの元に帰りたいという、こどものような心情でおられるということだった。姥が国へ、常世へ。折口信夫が熊野の大王が崎の尻端で感じたかのように、10月の日差しは暖かく車窓を包んだ。

津名道代さんの『トベ達の悲歌』に記載があるが、津名さんが書かれた「清姫は語る―鉢床秘図」を花柳鶴寿賀先生が2013年に国立劇場小劇場で日本舞踊「清姫伝え」として公演された。この作品では「道成寺」の清姫をトベの末裔として捉えるが、そもそも「道成寺」は大曲だ。伝統芸能、殊に能楽師の人生にとって「道成寺」をひらくことは最も重要だといわれる。その重さの一因に、トベとの緊張関係があったのだろうか。

妹のあづみが鶴寿賀先生に日本舞踊を師事していることもあり、ここ数年からだを使った表現者の場面によく居合わせる。「トベとからだ」は私の中で切っても切れない関係のように感じていた。からだは言葉で表現し尽くせない。いのちと結びついている。

二日目に行った南方熊楠記念館で、社会学者の鶴見和子さんが「南方曼陀羅」の意義を理解したことが、熊楠が世に知られる重要な役割を果たしたとあった。熊野の旅から帰った後、ふと鶴見さんが晩年脳出血で左片麻痺になった後に、新たな生命を得たように蘇ったことを思い出した。毎日のリハビリを世に公開し、死火山が爆発したようなほとばしりを歌に詠み、最期まで生きさられた。今年1月に帰幽された見田暎子さんも、死を受け入れ次の舞台へ向けいさぎよく駆け抜ける生きざまをみせてくださった。彼女の今世での良美さんとの最後の旅が紀伊半島からであったという。今回の慰霊に繋がったことは言うまでもない。トベに連なる「大いなる姉たち」である。

大きな世界を変えるのは、ひとりの小さな動きから

〜23年ぶりの交流の家「コンサート」〜

F I W C 関西委員会

青山 哲也

「きょうこの場所であうために、音楽を続けてきたのかも知れない」。フォーク歌手・中川五郎さんはそう言って交流の家を見つめた。中川さんの前には100人ももの観客がライブに聴き入っていた。中川さんは予定の時間を大幅に越えて熱唱を続けた。

即位の礼のため祝日となった10月22日、「交流の家コンサート」を開催した。子ども連れも多く、アットホームな雰囲気。プログラムは二部に分かれ、前半は三組が登場した。トップバッターはF I W Cのメンバーである加納さちあさん。ソーラー発電と自転車発電で電気を作りながらギターを演奏し歌をうたった。彼のおかげでスピーカーなどの音響に関しては原子力発電由来の電力を使わずにコンサートを行うことができた。

次は、同じくF I W Cのメンバーである劉成道さんが、KEY (在日コリアン青年連合)の仲間と朝鮮の打楽器を用いた音楽サムルノリを演奏してくれた。チャンゴなどの賑やかなリズムが響き渡ると「お祭り」の雰囲気が一気に広がった。

前半最後は佐渡装智子さんがステージに。佐渡さんは文芸作品を音訳・朗読し、視力を失くした全国のハンセン病療養所の入所者に届ける活動をする50年以上続けている。今回は群馬県のハンセン病療養所・栗生楽泉園に入所していた河東三郎さん(故人)の半生を描いた著書『ある軍属の物語―草津の墓碑銘』を朗読された。著書によると、河東さんは戦中に徴用され軍属としてインド洋の島で滑走路の建設工事などに携わっていたが、シンガポールの病院でハンセン病と診断され、終戦後も内地に引き揚げるまでマレーシアの病棟で隔離

された。戦地で過酷な境遇にあっても豊かな感性と正直な心を失わない彼の生きざまが、佐渡さんの語りで、まさに河東さんの「肉声」となって私に届いた。

後半はメインゲストである中川さんのライブ。今年70歳になる中川さんは大阪の寝屋川市出身。ベトナム反戦集会に参加したのをきっかけに各地であうたうようになる。歌手の沢知恵さんが主催する香川県ハンセン病療養所大島青松園のコンサートにも毎年参加している。また、柴地則之さんなど交流の家建設運動で中心的に活動したメンバーが多かった同志社大学文学部社会学科に在籍して、「音楽活動のために中退しなかったら、私もこの交流の家の運動に参加していたはず」とライブ中に熱く語っていた。

中川さんは、「交流の家では、いまうたいたい歌をうたいます」と、社会的なテーマを扱ったプロテクトソングを次々とうたった。「一台のリヤカーが立ち向かう」もそのひとつ。横須賀の海に戦争の船を許すなどリヤカーにアンブやスピーカーを積んでうたい続ける男のことや、座席が黒人と白人に分けられたバスで、警官が駆けつけても白人の席に座りつづけ、アメリカの公民権運動を生んだ黒人女性のことなどをうたった曲だ。今回のコンサートのキャッチフレーズ「大きな世界を変えるのは、ひとりの小さな動きから」は、この曲の歌詞からいただいた。

ライブの最後に中川さんがうたったのは、「ピーター・ノーマンを知っているかい?」。私が一番



聴きたかった歌だ。この曲は20分以上もあるバラッド(物語り歌)で、1968年のメキシコシティ・オリンピックの出来事をうたっている。陸上男子200mの表彰式で、金と銅のメダルをとった米国の黒人選手二人が、一対の黒手袋を分け合ってその拳を高く掲げた。黒人差別に抗議する公民権運動の象徴である「ブラックパワー・サリュート」を行ったのだ。そして、同じ表彰台にいた銀メダリスト・豪州の白人選手ピーター・ノーマンは、黒人の選手たちが胸につけた「人権を求めるオリンピック・プロジェクト」のバッジを自らの胸にもつけ、彼らへの支持を表明したのだ。

三人は帰国後にひどい仕打ちを受けて大きな代償を払うが、黒人選手はもちろん、ピーター・ノーマンも信念を曲げることなく自由と平等のために闘い続けた。その彼らの闘いを、ギターのリズムにのせて、力強く語り聴かせてくれる。

中川さんはこの曲の最後にこのようにうたう。
《あれから50年の歳月が流れた 今の世界は自由で平等なのか あなたのまわりで差別が行われたり 人権が奪われたりしていないか ひとつの国や民族を排斥したり 醜いヘイト・スピーチが聞こえてこないか たったひとりで立ち向かうあなた 自由と平等、人権のために でもあなたのまわりを見回してごらん あなたは決してひとりではない あなたのそばにはピーター・ノーマン あなたのピーター・ノーマンがいる》

そして、中川さんは何度も叫ぶ。《Take a Stand!》《Take a Stand!》《Take a Stand!》正しく思うこのために立ち上がろう!と。そう、いまこそ《Take a Stand!》が必要なのだ。

あじさい日誌

11月15日 大倭神宮月次祭。

祭典後、参拝された男性を中心に社務所の左側の大きな南天を保護してきた木杵を取替え、金属パイプで囲いました。

11月17日 午後2時から大本宮拜殿で、中国医学や氣功の第一人者である鶴沼宏樹氏を講師に迎え大倭会文化講演会。好天で、参加者は50人ほど。笑いも交え分かりやすいお話でした。1月号で詳細報告記事を予定。

11月23日 大倭大本宮月次祭。暖かい日とで、昭和41年11月23日の法話をお聞きしました(『おおやまと』紙に未掲載)。

午後4時から大倭会館で大倭会幹事会。

11月28日 午後、浅井克明さん(奈良県橿原市)の案内で、静岡県から杉本ひとみさん(浜松市)、中野和恵・細谷さおりさん(掛川市)が来邑され、杉本順一さんと歓談。その後、大倭神宮に参られました。

11月29日 福島から高橋良美さん来邑。昇ちゃんハウスにしばらく滞在して大倭神宮の竹等のお掃除をしてくれるとのこと。12月4日 大倭神宮金鶏祭。大変寒い日でした。上村優梨子(奈良県香芝市)・土田美恵子さん(兵庫県西宮市)が初参拝。12月6日 大倭神宮月次祭。夜、大倭会館で邑倭の会。12月8日 昭和16年の太平洋戦争開戦から78年になります。8時から大倭墓地、9時から紫陽花邑の大掃除。常連さん達の高齢化で心もとない中、年末の禊という心で参加される方や、また大倭安宿苑の大勢の職

新年のご挨拶を申し上げます

山をかける獣や空を飛ぶ小鳥の姿を眺めた時、その何れもが自分の力で生きていくと観るより、大自然の神の恵みにいかされていく事実が、厳然と観視することができるのである。生かされている事実を完全に把握すれば、我々の日常生活は神に対する感謝をもって営むことができるのである。生きるに必要とするあらゆるものに対して感謝するようになる。この感謝の生活こそ幸福な生活である。(昭和二十四年二月三日)

野草社『やわらぎの黙示』67頁より
誰もが当たり前のようにすごしている時間の中に、誰もが心の向上をはかるための教材があると、教えられている気がします。

皆さんお変わりありませんか、今年も元氣にお会いしたいものです。今年もよろしくお願ひします。

大倭七十六年 元旦

宗教法人大倭教

教長 矢追 家麻呂
紫陽花邑 邑人一同

員、須加宮寮住死者の皆さんの地域貢献に大いに助けられ、無事終了しました。

12月9日 午前中、あじさいの箱の習字教室の皆さんが大倭会館の大掃除をしてくれました。

大倭安宿苑では

11月27日 奈良西警察署により防犯講習「施設における不審者対策」の講義を受けました。

(菅原園)

11月16日 園内でインフルエンザ予防接種を受けました。

(須加宮寮)

11月14日 地域清掃。須賀の道の落ち葉掃除をしました。

(長曾根寮)

11月25日 (デイ) 色々なボタンでクリスマス飾り作り。

11月24日 (特養) 毎月の喫茶俱樂部あじさいに参加者14名。

(茂毛路園)

11月25日 書道クラブ。その作品を各階へ飾りました。

(八重垣園)

11月30日 紅葉に誘われ散歩。12月1日 創立24周年。紅白饅頭や一人鍋でお祝いしました。

11月号の感想

北海道小樽市 守谷 明宏

▼「学生達への話」 法話とも違つてすくく読みやすかった。まとめる人がうまいのかな。

▼「神通力如是」 興味深く読んでいます。法話や本で法主さんの色々な話を読んでいます

が、その源流にこんな出来事があったのかという思いです。正座して対面し、妙月母さんの体を借りて倭姫が「深禮」しているのですか、ではその礼をされている法主さんは誰なのか。そんなことを思いました。何回続くのか分かりませんが、楽しみにしております。

あんない

*年始祭(大倭神宮)
1月1日(祝) 午後1時から奥津齋庭、法主奥津城へご挨拶。午後2時から大倭神宮にて。

*月次祭(大倭神宮)
1月6日(月) 午後2時より大倭神宮にて。

*大倭会主催第612回祝会
1月12日(日) 午後2時より大倭大本宮拜殿にて。

*大とんど
1月13日(成人の日) 午前9時30分より大本宮西の齋庭にて。注連縄や門松等を火にあげる神事です。当日の天候により日時を変更する場合があります。

針金・プラスチック等、不燃物は必ずはずしてきて下さい。

*月次祭(大倭神宮)
1月15日(水) 午後2時より大倭神宮にて。

*月次祭(大倭大本宮)
1月23日(木) 午後2時より大倭大本宮拜殿にて。